

第二回

2016年9月10日(土) 13時30分～18時
大阪大学豊中キャンパス 文学研究科本館 2階大会議室

日本漢文学総合討論

A Symposium on Japanese Kanbun: A Comprehensive Study of Chinese Prose and Poetry Written by Japanese, 2016
The Place of "Sinitic Literature" in East Asia: Chinese, Korean, and Japanese Perspectives

使用言語: 中国語・韓国語・日本語(すべて日本語へ通訳されます)

趣旨説明 13:30～13:40

山本嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka (大阪大学講師)

Session 1 13:40～14:00

論点整理 及び プロジェクトの経過報告

Session 2 14:10～15:20

金程宇 JIN Chengyu (南京大学域外漢籍研究所教授)

日本漢詩在東亞漢文化圈中的意義

東アジア文化圏における日本漢詩の意義

司会 中本大 NAKAMOTO Dai (立命館大学教授)

通訳 張麗静 ZHANG Lijing (大阪大学招へい研究員)

Session 3 15:30～16:40

姜明官 KANG Myeong Kwan (釜山大学校文科大学教授)

조선후기 한문학의公安派 수용의 양상 (한국한문학 연구사 검토를 겸하여)

朝鮮後期の漢文学における公安派受容の様相

—韓国漢文学研究史の検討を兼ねて—

司会 福島理子 FUKUSHIMA Riko (帝塚山学院大学教授)

通訳 康盛国 KANG Sung Kook (大阪大学招へい研究員)

総合討論 16:50～17:50

ディスカッサント 大谷雅夫 OTANI Masao (京都大学教授)

齋藤希史 SAITO Mareshi (東京大学教授)

閉会の辞 17:50～18:00

飯倉洋一 IKURA Yoichi (大阪大学教授)

主催: 日本漢文学プロジェクト共同研究チーム・大阪大学大学院文学研究科国際古典籍学クラスター

共催: 国文学研究資料館

連絡先: 山本嘉孝研究室 (Tel: 06-6850-5680 E-mail: yamamoto@let.osaka-u.ac.jp)

漢文学

—中国、韓国、そして日本—

“は東アジアにおいて
どう語られてきたか？”